

令和元年5月14日

社会全体の統計リテラシー向上のための取組を実施します －「社会人のためのデータサイエンス演習」開講と 「統計データ分析コンペティション」開催－

総務省は、将来の経済成長を担う“データサイエンス”力の高い人材育成のため、データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」を本日開講します。

また、高校生、大学生等の統計の有用性への理解と統計データの利活用拡大のため、独立行政法人統計センター等との共催により、「統計データ分析コンペティション」を開催します。

○「社会人のためのデータサイエンス演習」の開講

本日、データサイエンス・オンライン講座「社会人のためのデータサイエンス演習」を開講します。本講座は、ビジネスや行政での活用を想定した講座として、ビジネスや業務上での分析事例を中心に実践的なデータ分析（統計分析）の手法を学ぶことができる内容となっています。

本講座紹介用ウェブサイト (<http://gacco.org/stat-japan2/>) で7月10日(水)まで、どなたでも受講登録が可能(登録料及び受講料無料)です。【別紙1】

(注) 本講座は、平成28年(2016年)4月及び平成29年(2017年)11月に実施した講座を再び開講するものです。

○「統計データ分析コンペティション」の開催

高校生、大学生等を対象に、「教育用標準データセット(SSDSE)」を用いた統計分析の論文を募集し、そのアイデアと解析力を競うコンペティションを今年度も開催します。

エントリーの開始は、7月1日(月)です。【別紙2】

(注) SSDSEは、データサイエンス教育のための汎用素材として、作成・公開しているデータです。

<参考>

統計リテラシー向上や地域間比較等、統計データの“見える化”に資するため、「政府統計の総合窓口(e-Stat)^{※1}」と「統計ダッシュボード^{※2}」の機能の充実を行いました。

※1 日本の統計が閲覧できる政府統計ポータルサイトです(<https://www.e-stat.go.jp/>)。

※2 国や民間企業等が提供している主要な統計データをグラフ等に加工して一覧表示し、視覚的に分かりやすく、簡単に利用できる形で提供するシステムです(<https://dashboard.e-stat.go.jp/>)。

(連絡先)

【全体に関する問合せ】

統計局統計情報利用推進課

担当：本橋課長補佐 桑原係長

電話：03-5273-1023 (直通)

F A X：03-3204-9361

E-mail：y-senryaku_atmark_soumu.go.jp

【「統計データ分析コンペティション」に関する問合せ】

(独)統計センター技術研究開発課

担当：伊原統括統計職

電話：03-5273-1368 (直通)

F A X：03-5273-1018

E-mail：statcompe_atmark_nstac.go.jp

(スパムメール防止のため、「@」を「_atmark_」と表示しています。メールを送る際に「_atmark_」を「@」に直して入力してください。)

講座の目的：ビジネス上での分析事例を中心に
実践的なデータ分析（統計分析）の手法を習得する

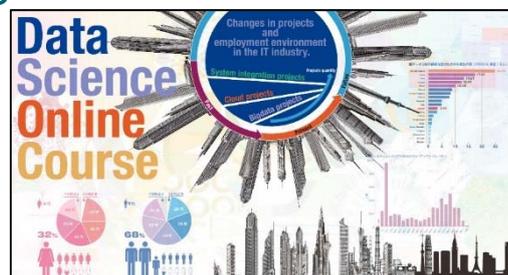
開 講 日：令和元年（2019年）5月14日（火）

学 習 時 間：1回10分程度×5～6回程度（1週間）×5週

課 題：第1～4週の確認テストと最終課題の実施

講 師：データサイエンスに携わる専門家、大学教授、
総務省統計局職員

対 象：社会人



週	各週のテーマ	内 容
1	データサイエンスとは	データサイエンスが必要とされる背景やデータ分析に基づく問題解決プロセスを紹介
2	分析の概念と事例	記述統計によるデータの把握と比較方法について学習
3	分析の具体的な手法	相関関係等の2変数の関係や時系列データの解釈について学習
4	ビジネスにおける予測と分析結果の報告	回帰分析による予測や分析結果の報告と解釈について学習
5	ビジネスでデータサイエンスを実現するために	ビジネスでデータサイエンスを実現するためのポイントについて解説

▶ 講座の流れ



講師による説明動画でデータサイエンスを分かりやすく解説

各週の確認テストにより理解度を確認、最終課題により習熟度を確認

確認テスト及び最終課題の得点率により修了証を取得

▶ これまでに開講したデータサイエンス・オンライン講座

「社会人のためのデータサイエンス入門」

(講座の特徴)
データ分析の基本的な知識を学べる入門編講座

(開 講 時 期)
平成27年(2015年)3月・11月
平成28年(2016年)3月※・12月
平成29年(2017年)5月※
平成30年(2018年)5月、11月※

(学 習 時 間)
1回10分程度×6～9回程度
(1週間)×4週

(実 績)
社会人を中心に延べ
約68,000人が受講

「社会人のためのデータサイエンス演習」

(講座の特徴)
「社会人のためのデータサイエンス入門」を踏まえ、より実践的な内容へ

(開 講 時 期)
平成28年(2016年)4月・11月※
平成29年(2017年)11月
平成30年(2018年)6月※

(学 習 時 間)
1回10分程度×5～6回程度
(1週間)×5週

(実 績)
社会人を中心に延べ
約28,000人が受講

「誰でも使える統計オープンデータ」

(講座の特徴)
公的統計の基本的な知識とデータ分析の実践的な手法を学び、統計オープンデータの活用へ

(開 講 時 期)
平成29年(2017年)6月・10月※
平成30年(2018年)12月

(学 習 時 間)
1回10分程度×5～7回程度
(1週間)×4週

(実 績)
社会人を中心に延べ
約15,000人が受講

※特別開講：参考として動画の閲覧のみ可能な講座

「統計データ分析コンペティション」の開催

高校生、大学生等が統計の有用性を理解し、統計データを適切に活用できるよう、統計データの分析に関するコンペティションを今年度も開催します。

▶ 概 要

教育用標準データセット (SSDSE) ※を用いた統計分析の論文を募集し、アイデアと解析力を競うことで、高校生、大学生等の統計リテラシーの向上を図ります。

▶ エントリー期間

令和元年（2019年）7月1日（月）から8月9日（金）まで

▶ 論文締切

[大学生・一般の部] **令和元年9月9日（月）**

[高 校 生 の 部] **令和元年9月17日（火）**

▶ 表 彰

優秀作品には、総務大臣賞、優秀賞、統計数理賞、統計活用奨励賞と各副賞が授与されます。また、受賞論文が統計専門誌等に掲載されます。

▶ 共 催

- ・総務省統計局
- ・独立行政法人 統計センター
- ・大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所
- ・一般財団法人 日本統計協会

※教育用標準データセット (SSDSE) とは

SSDSE: Standardized Statistical Data Set for Education

データサイエンス教育のための汎用素材として、作成・公開しているデータで、公的統計の主要な111項目のデータを全国1741市区町村別に一覧できる、表形式のデータセットです。

（6月に、現行データセットを拡大・更新した今年度版を公開予定）

詳細については、当コンペティションのウェブサイトを御覧ください。

<https://www.nstac.go.jp/statcompe/>

統計リテラシー向上や地域間比較等、統計データの “見える化”に資するため、「政府統計の総合窓口(e-Stat)」 と「統計ダッシュボード」の機能の充実を行いました。

【政府統計の総合窓口（e-Stat）】「地域」コーナーの機能を強化

「地域」コーナーでは、「統計でみる都道府県・市区町村のすがた（社会・人口統計体系）」で整備された各種統計データから、地域・項目で抽出した統計表表示、グラフ表示、ダウンロード等を行うことができます。

<ランキング機能の追加>

簡単に地域（都道府県・市区町村）間の順位が表示できるよう、「地域ランキング」機能を新たに設けました。

<類似地域検索機能の強化>

これまで2項目しか指定できなかった検索条件を、最大10項目まで拡大することで、類似地域をより細かい条件で表示できるようになりました。

政府統計の総合窓口（e-Stat）→「地域」コーナー

<https://www.e-stat.go.jp/regional-statistics/ssdsview>

【統計ダッシュボード】地域のデータ比較・表示機能の充実

都道府県や市町村の姿を客観的に把握できるように、知りたい地域のデータをレーダーチャートやランキングに表示して「見える化」します。

<レーダーチャート機能>

知りたい地域のデータを全国や都道府県内の平均と比較して、その位置をレーダーチャートに表示します。グラフの形状から地域の特徴を視覚的に把握することができます。

<ランキング機能>

レーダーチャートに表示しているデータについて、全国や都道府県内の地域別順位を一覧形式で表示します。

統計ダッシュボード

<https://dashboard.e-stat.go.jp/>

是非御活用ください！